

# 来年度以降の知識・活用を一体的に問う調査問題について

来年度の全国学力・学習状況調査では教科に関する調査問題が大きく変わります。中学校の英語が初めて実施されるとともに、国語、算数・数学では、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、A問題、B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う問題になります。本通信では、この「一体的に問う問題」について紹介します。



## 調査問題の在り方の見直しについて

### これまでの経緯と現状

・問題作成の基本理念として、「知識」と「活用」とに整理

**A問題** 学力の底上げが図られた。

**B問題** 授業改善の取組が学校現場に広がった。

知識と活用を分けた調査が果たしてきた一定の役割について評価する声がある。

### 一方で

つまずきを把握する上で「知識」と「活用」とを**一体的に問うことが有効な場面もあり**、A・Bの問題区分が絶対的なものではなくなりつつある状況も見られる。

### そこで

新学習指導要領における  
資質・能力の育成イメージ

### 資質・能力の三つの柱

学びに向かう力  
人間性等

相互に関係  
し合いながら  
育成される

知識  
技能

思考力  
判断力  
表現力等

趣旨を  
踏まえて

### 平成30年度まで

知識  
A問題

活用  
B問題

### 平成31年度以降

一体的に問う

知識

活用

※従来A問題で測られてきた基礎的な知識・技能は大問の中の小問の1つとして出題するなど工夫をする。



## サンプル問題について

サンプル問題  
とは？

文部科学省が平成31年度以降の全国学力・学習状況調査において、知識・活用を一体的に問う方針を示した際、過去の調査問題を基にサンプルとして作成し公表した問題です。

義務教育課では、市町村(組合)教育委員会を通じてデータを送付しています。ぜひ御活用ください。